

認定特定非営利活動法人
市民活動センター神戸

2015 年度
年次報告書

(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

2015 年 6 月

KEC; KOBE EMPOWERMENT CENTE

第1号議案 2015年度事業報告案

I. この1年を振り返って	2
II. 事業	
1. NPO 支援事業	5
①認定 NPO 法人相談事業	
②相談・セミナー事業	
③神戸元町 NPO ポート事業	
④その他の NPO 支援事業	
※「今田忠さんを囲む会」	
2. NPO のための資源仲介事業	9
①ひょうごコミュニティ財団支援事業	
②その他の資源仲介事業	
3. 調査研究、政策提言事業	12
①NPO やまちづくりに関する調査、政策提言事業	
②機関誌「みみずく」発行事業	
③役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等	
4. 東日本被災地支援およびその他の災害支援事業	15
①東日本大震災の被災地支援	
②東日本大震災・福島第一原発事故による広域避難者支援	
③北関東・東北豪雨水害の被災地（常総）支援事業 新規	
III. 組織	
1. 会議	19
2. 会員	19
3. 役員	20
4. 事務局	20

第2号議案 2015年度決算報告案

1. 活動計算書	21
2. 貸借対照表	23
3. 第16期財務諸表に対する注記	24
4. 財産目録	26
5. 監査報告	27

第 1 号議案 2015 年度事業報告案**I. この 1 年を振り返って**

本年度は、2013 年度から続く「ひょうごコミュニティ財団」の立ち上げ支援に大きな進展が見られただけでなく、同財団との連携の中から、KEC として NPO 支援の新たなステージも見えてきた年でした。また、「ひょうごん福祉ネット」による神戸市への提言活動や政治への働きかけなど、アドボカシー活動にも力を入れました。

ひょうごコミュニティ財団の立ち上がりと、KEC との連携が進んでいます

ひょうごコミュニティ財団は、この 1 年間で新規の助成プログラムが 2 件、さらに今春準備中の新規プログラムが 2 件と、満 3 年（2016 年 6 月）を前に「離陸」への展望が見えてきました。3 年間の寄付金額も 3600 万円近くとなり（件数は 1,440 件あまり）、新聞掲載もこの 1 年間で 20 数回を数えるなど、この地域の代表的なコミュニティファンドとして、認知も高めてきました。

KEC にとってひょうごコミュニティ財団は設立と離陸を「支援」するだけの対象ではなくなっています。例えば、KEC が生み出した「共感寄付」プログラムはコミュニティ財団が受け継いで発展させ、支援者拡大という大事な面で優れた組織力強化（キャパシティ・ビルディング）の仕組みとして育ってきています。NPO が日常の業務を超えて広く市民に支援を呼びかけることを促し、市民の共感と参加に支えられる組織への成長を促す有効な手法となっており、その知見やノウハウは KEC にも大きく還元されています。

さらに、コミュニティ財団が進めている助成プログラムは、単に資金を提供するだけではなく、他の担い手（行政、企業、他の非営利組織など）とも連携して課題解決に当たるネットワークを形成したり、中長期的な助成先団体の成長、発展を促したりなど、KEC や一緒にコミュニティ財団を立ち上げた兵庫の中間支援がこれまで蓄積してきた NPO 支援のノウハウや地域社会におけるネットワークが大きく活かされています。コミュニティ財団単独ではなく、KEC や(特活)シミンズシーズをはじめ実質的に同財団と中間支援組織が連携して実施する事業もいくつもあり、その成果は県内の中間支援組織にも大きくプラスになってくると思われます。

アドボカシーにも力を入れました

調査・提言の分野ですが、この 1 年は神戸市の総合福祉計画の改定もあって「ひょうごん福祉ネット」の活動が活発になり、それをアドバイザー役として支えました。介護保険制度の大改正が進む中、今後主

役となる基礎自治体＝神戸市の福祉政策としっかり連携するために、さまざまなアドボカシー（提案、提言）を行っています。4月には久元神戸市長との面会も実現、その後も政策協議を続けています。

神戸市内で認定 NPO 法人が急増中！

この他では、引き続き「認定 NPO 法人」の取得支援に注力しました。今年度はこれまで蒔いてきた種が芽を出し、神戸市内で新規の認定が8法人（累計15法人。他に仮認定 NPO 法人が2法人）となりました。認定・仮認定 NPO 法人の累計17法人（KECを含む）のうち、KECがご支援した法人はKEC以外で13法人に上ります。また、認定 NPO 法人の15法人という数は、人口比で見ると全国67の所轄庁のうち第7位となっており、KECによるサポートが有効に働いていると言ってよいでしょう。

東日本大震災、その他の災害支援も

最後に、東日本大震災およびその他の災害支援ですが、久し振りに福島への助成を実施しました。また、兵庫での広域避難者支援活動でも「避難サポートひょうご」と合同で、避難当事者の団体への助成を行いました。今年度は東日本のほか、9月に北関東・東北でも水害が起り、地元の団体である「認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ」による「JUNTOS！」を現地パートナーとして、ひょうごコミュニティ財団と連携した募金活動、および現地での活動支援を行いました。

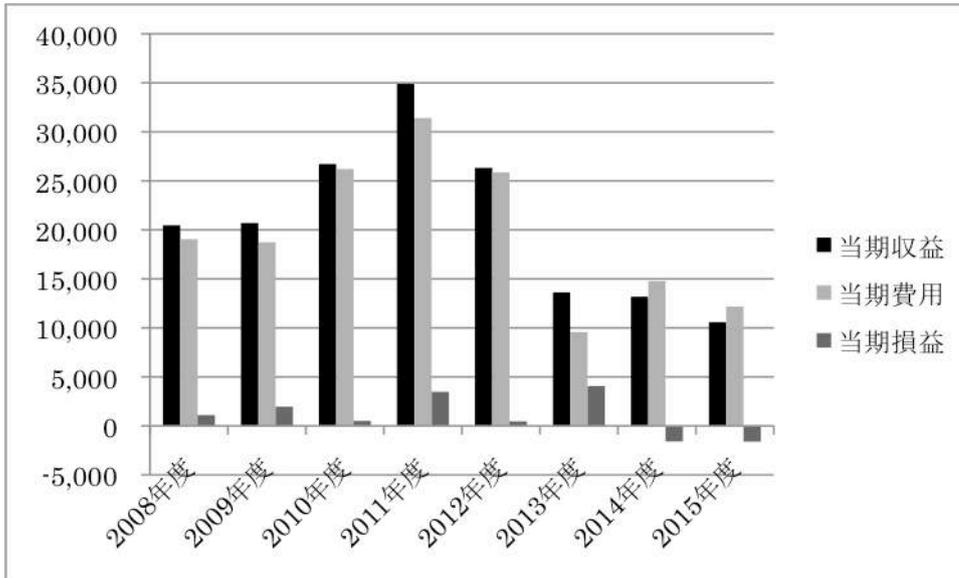
2015年度は、「みみずく」などの情報発信が十分できませんでしたが、規模が小さくなった割には中身のある活動ができたのではないかと考えています。

財政的には約168万円の赤字決算でした。元々予定の赤字でしたが、その幅は予算をかなり上回りました。寄付金や会費を十分集められなかったことが最大の要因ですが、同時に、会計面の強化ほか体制面にも費用を割きました。この赤字は当会の財政余力からみて十分許容範囲であり、またその分、会計面はじめ将来への投資もできたと思います。

2016年度はこれらの実績をもとに、よりいっそう「ひょうごコミュニティ財団」との相乗効果を図りコミュニティ財団を着実に離陸軌道に乗せていくとともに、アドボカシー（政策提言）を中心に「KEC ならでは」の活動をしていきたいと考えています。

(参考)

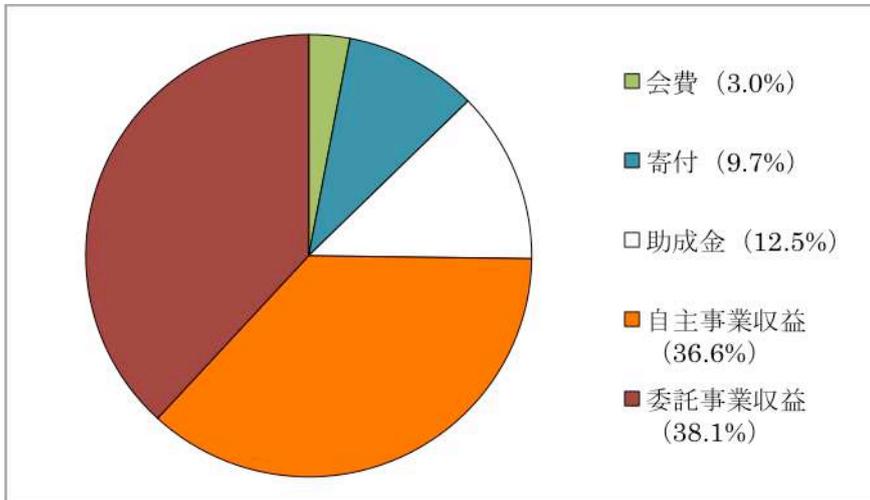
1. 損益の経年変化



※1 2009 年度までは収支計算書、2010 年度以降は活動計算書により決算しています。

※2 2013 年度は7月～3月の9ヶ月決算でした。

2. 収益の内訳 (概要)



II. 事業

1. NPO 支援事業

認定 NPO 法人の申請・取得支援では、今年度神戸市で 8 法人が認定を取得、そのうち 6 法人に関わりました（累計では 17 法人中、当会自身を含めて 14 法人）。

また、日常の相談業務が再び増えてきたほか、「おはなしカフェ」と名付けて NPO と社会福祉協議会との相互理解・ネットワークづくりの活動を行いました。

「ひょうごん福祉ネット」の活動支援も重点的に行いましたが、意味合いとして政策提言の色が濃かったため、事業 3-①（p 14）に詳しく記しました。

①認定 NPO 法人相談事業

神戸市委託事業として 4 年目を迎え、市内の法人を中心に認定 NPO 法人制度についての情報提供と申請・取得のサポートを実施した。その結果、当年度以前にサポートした団体も含めて 2015 年度は下記の 6 法人が認定を取得した。神戸市全体では 8 法人で、認定 NPO 法人数は 1 年で倍以上になった。

神戸市の累計認定数は認定 NPO 法人が 15 法人、仮認定 NPO 法人が 2 法人の計 17 法人となった（2016 年 3 月末現在）。これは人口比では、全国 67 の所轄庁の中で第 7 位（認定のみ）および第 10 位（認定+仮認定）の数字である。

2015 年度からサポートしている法人で現在申請準備中の団体も複数あり、2016 年度も引き続き認定取得をサポートしていきたいが、並行して、認定後の寄付獲得の支援にも、ひょうごコミュニティ財団とも連携して力を入れていきたい。

◇今年度の認定取得法人（KEC が関与した団体のみ；取得順）

- (特活)黄河の森緑化ネットワーク
- (特活)Present Garden to
- (特活)産業人 O B ネット（仮認定からの認定）
- (特活)東灘地域助け合いネットワーク
- (特活)神戸ミャンマー皆好会
- (特活)神戸国際占術協会

<相談実績> 2015 年 4 月～2016 年 3 月

相談件数（団体数） 延べ 39 回（22 団体）

認定申請件数 4 団体

出張相談 3 団体 6 回（理事会等での説明、書類管理や日々業務の見直し支援等）

説明会

- (認定カフェ) 3 回開催、計 19 名参加
- (基礎編) 2 回開催、計 17 名参加
- (事例編) 1 回開催、10 名参加
- (実務編) 2 回開催、計 72 名参加

<実施体制>

相談員、講師： 大島一晃、諏訪晃一、実吉威
コーディネーター： 大島一晃（～2015年6月）、諏訪晃一（2015年7月～）
事務局： 谷侑衣子、辻早苗、実吉威、星野修平

②相談・セミナー事業

1) おはなしカフェ

セクターをつなぎ、世代をつなぐという趣旨で、「おはなしカフェ」を計3回、開催した。

第1回 社協とNPOの連携を考える（第1回）

日時：2015年11月25日（水）19:00～22:00

場所：Bar88（三宮）

ゲスト：長谷部治氏（(社福)神戸市中央区社会福祉協議会 事業課長）

参加者：21名

第2回 社協とNPOの連携を考える（第2回）

日時：2016年3月4日（木）18:30～21:30

場所：市民活動センター神戸

ゲスト：山本章博氏（(社福)明石市社会福祉協議会 事業課長）

柏木登起氏（(一財)明石コミュニティ創造協会 事務局長）

参加者：14名

第3回 大震災と原発事故から5年 福島の今とこれからの語る報告会&交流会

日時：2016年3月19日（土）13:30～16:30

場所：兵庫県民会館

ゲスト：鈴木和隆氏（(特活)うつくしまNPOネットワーク 事務局長）

参加者：28名

※事業4-①（p15）参照



第1回 (2015.11.25)



第2回 (2016.3.4)

2) 「外国にルーツを持つ子ども」応援ネットワーク事業

ひょうごコミュニティ財団が実施する外国にルーツを持つ子どもへの支援と連動する形で、同テーマで活動する NPO 等を訪問し（一部来訪）、なぜ活動が必要なのか（ニーズとそのリアリティ）、活動上の課題、さらにネットワークにより達成・解決できることなどを伺った。（ひょうごボランティア基金助成事業）
 （担当：谷侑衣子、今府紘子、実吉威）

（訪問団体）

- ・ひょうごラテンコミュニティ（神戸市）
- ・ワールドキッズコミュニティ（神戸市）
- ・神戸 YWCA（神戸市）
- ・灘わくわく会（神戸市）
- ・兵庫日本語ボランティアネットワーク（神戸市）
- ・賀川記念館（神戸市）
- ・城東町補習教室（姫路市）
- ・多文化共生センターひょうご（神戸市）
- ・こくさいひろば芦屋（芦屋市）
- ・コープこうべ（第1地区の組合員理事）
- ・ドマソーラ神戸（神戸市）
- ・兵庫県教育委員会人権教育課
- ・神戸市保健福祉局の関係課（総務部長、計画調整課、保護課）
 同、こども家庭局の関係課（こども企画育成部長、こども家庭支援課、事業課、
 こども家庭センター（児童相談所））
- ・近畿タクシー株式会社

③神戸元町 NPO ポート事業

昨年に引き続き、兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会に1室を賃貸し、ひょうごコミュニティ財団にデスクスペース、PC、事務機器等の提供を行っている。

KEC、コミュニティ財団とも事務局スペース拡大の可能性があるため、北側部屋は入居募集を控えている。
 （担当：小貴央子）

提供	入居団体
1室（3F 西側部屋）	兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会（3F）
机（複数）	公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
シェアデスク	なし

④その他の NPO 支援事業

○NPO アドバイザー派遣事業

引き続き、(特活)神戸まちづくり研究所が神戸市から受託、実施する「NPO アドバイザー派遣事業」に参加した。

担当支援団体： べこっこ MaMa（担当アドバイザー＝実吉）

● 「今田忠さんを囲む会」

市民活動センター神戸（KEC）の前身である震災しみん情報室の時代から運営委員として、KEC の法人化の後は理事として永年 KEC を支えてくださった今田忠元理事を囲む懇談会を開催した。

正式の KEC の事業ではなかったが、KEC 会員を中心に声をかけて実施した。これまでの市民活動の歴史や現在の社会状況、政治の状況まで、多彩な話題に花が開いた。

第1回

日 時：2015 年 12 月 23 日（祝）12:00～14:00

場 所：西村屋和楽

参加者：今田夫妻 + 11 名

第2回

日 時：2016 年 3 月 27 日（日）12:00～14:00

場 所：西村屋和楽（神戸市灘区、阪急御影）

参加者：今田夫妻 + 8 名



2. NPO のための資源仲介事業

「公益財団法人ひょうごコミュニティ財団」が具体的な成果を出し始めた1年でした。複数の助成プログラムが始まっており、その先に離陸が徐々に見えてきました。また、コミュニティ財団と KEC の相乗効果も現れてきており、この地域の新しい公益インフラとして整備が進んでいると言えます。冒頭にも記したように、同財団単独ではなく、KEC や他の中間支援組織との協働で事業は進んでおり、兵庫ならではのネットワークを活かしたコミュニティファンドとなっています。またその成果も、県内の中間支援組織に還元できそうです。

ひょうごコミュニティ財団の本格的な離陸までは、まだ2、3年を要すると考えています。引き続き皆さまのご支援をお願いいたします。

①ひょうごコミュニティ財団支援事業

2013 年設立の「公益財団法人ひょうごコミュニティ財団」への支援を引き続き行った。この1年、同財団は次のように複数の助成プログラムを新設、実施した。これ以外にも寄付・遺贈・新規助成プログラムの相談は続いており、離陸へ向け着実に歩み始めている。

冒頭にも記したように、KEC にとってコミュニティ財団支援は単なる支援を超えて、次のステージの社会基盤整備の意味を帯びつつある。コミュニティ財団や他の中間支援組織と連携して、地域の課題解決のための新しい枠組みやネットワークを構築していこうとしている。単なる「NPO 支援」を超えて地域の課題解決のためのよりよい枠組み作りに、コミュニティ財団と KEC が総合的に力を発揮するようになっていきます。それには、これまで KEC が蓄積してきたノウハウや地域社会におけるネットワークが大きく生きています。

◇3年間の寄付総額 35,978,325円(1,443件)

◇ <u>共感寄付プログラム</u>	第2期	参加団体募集	2014年10月～12月
		寄付募集	2015年5月～8月
		寄付額	6,677,780円(501件)
		助成額	5,673,563円(15団体)
	第3期	参加団体募集	2015年4月～7月
		寄付募集	2015年12月～3月
寄付額		5,018,109円(295件)	
	助成額	4,240,623円(12団体)	

◇Project HEAT (外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金)

寄付者 HSBC グループ

第1期 2015年6月～12月(事業実施期間)

2団体に助成 計110万円

多文化共生センターひょうご

こくさいひろば芦屋

第 2 期 2016 年 1 月～12 月 (同上)

2 団体に助成 計 1 3 0 万円

同上

※協力・全国事務局：(特活)NICE (日本国際ワークキャンプセンター)

◇輝け加古川こども基金

寄付者 加古川市在住の篤志家 (個人)

第 1 期 2015 年 4 月～2016 年 3 月 (同上)

1 5 団体に助成 計 2, 5 2 1, 3 2 0 円

基本コース 1 0 団体 (上限 1 0 万円)

発展コース 5 団体 (上限 1 0 0 万円)

※協力：(特活)シミズシーズ

◇北関東・東北豪雨水害への募金 (2015 年 9 月～11 月)

2 0 6, 3 5 1 円 (2 0 件)

このほか、

◇新聞記事掲載 2 3 件 (2015 年 4 月～2016 年 3 月)

◇募金箱設置箇所 6 0 箇所 (2016 年 5 月現在)

②その他の資源仲介事業

1) 「サンケイリビング」紙での NPO 等の情報発信

女性のための地域生活情報紙「サンケイリビング新聞(神戸西版・東版)」では、ボランティア募集やイベント・講座(非営利で公共性の高いもの、無料もしくは低額のもの)などの参加者募集記事を掲載しており、その NPO の情報集約を KEC が昨年に引き続き担当している。情報は 1 ヶ月に 1～3 回の頻度で『まちトピ』というコーナーに掲載されている。紙面スペースの都合上、掲載件数や文字数の制限があるものの、NPO からの情報提供は積極的にあるため、紙面への掲載が難しい場合は Web 記事として掲載される場合もある。このように、神戸近郊の NPO に大いに活用されている。

(担当：小貫央子)

2) SAVE JAPAN 事業

株式会社損害保険ジャパン日本興亜から日本 NPO センターへの寄付を原資とする「SAVE JAPAN プロジェクト」という委託事業を受け、県下で環境保護活動を行う団体を支援している。2015 年度は、前年度に引き続き(特活)日本ハンザキ研究所を実施団体に選定し、地域住民の方へ環境保全活動に参加する機会を提供した。姫路市内において「生きたオオサンショウウオの出前観察講座」、また朝来市において「野生のオオサンショウウオの夜間観察講座」をそれぞれ開催し、実施団体に対し助成を行うと共に、イベント企画・報告や当日運営にも参加した。今年度はイベントチラシの作成も KEC が手がけ、好評を博した。

SAVE JAPAN イベントに足を運んでいただくことにより、地域住民に方々に県内の生物多様性への理解を広め、地域の自然環境に関心をもっていただけると共に、県内の NPO 団体が取り組む活動の一部をも知っていただける良い機会となっている。

(担当：小貫央子、谷侑衣子)

<イベント詳細>

第1回…出前講座 in 姫路「巨大オオサンショウウオが姫路の街にやってくる！」

日 時：2015 年 7 月 30 日（木）11:00～12:30、13:30～15:00（2 回開催）

場 所：兵庫県立姫路労働会館（姫路市北条 1-98）

講 師：栃本武良氏（日本ハンザキ研究所理事長、姫路市立水族館元館長、島根県立宍道湖自然館元館長）

参加者：79 名（中学生以上 36 名、小学生以下 43 名）

オオサンショウウオの生息地は県内山間部の交通が不便な場所であるため、生息地での観察会には参加できる人が限られてしまうことから、姫路市内に於いて出前講座を実施した。1m40cm の生きたオオサンショウウオを水槽で運び入れ、パワーポイントや展示パネルの説明等を見ながら、講義を受けた。オオサンショウウオを運び入れ可能な会場の確保、参加者を集めやすい開催日時調整など難しい面もあったが、参加者アンケートの集計結果を見ると、満足度は非常に高いものであった。

第2回…現地夜間観察会「野生のオオサンショウウオに会いに行こう！」

日 時：2015 年 8 月 22 日（土）19:00～21:30

場 所：黒川自然公園センター（兵庫県朝来市生野町黒川 507）

講 師：栃本武良氏

岡田純氏（日本ハンザキ研究所副理事長、鳥取大学プロジェクト研究員）

参加者：65 名（中学生以上 40 名、小学生以下 25 名）

夜行性のオオサンショウウオに合わせて、生息地での夜間観察会を開催した。山間部に位置する交通の便の悪い場所にもかかわらず、昨年の参加者数を大きく上回り、非常に盛会となった。参加者アンケートを見ると、中には片道 5 時間以上をかけて参加してくださった方も数名おられた。夜間の野外活動のため、参加者の誘導や安全確保等に注意が必要であったが、主催側も参加者も共に充実したイベントとなった。

3) 明治ホールディングス社による菓子のご寄贈

明治ホールディングス株式会社及び同社株主の社会貢献活動の一環として行われている「お菓子寄贈プログラム」の仲介を行った。全体的とりまとめは日本 NPO センターが担っているもので、KEC は県内寄贈先団体の推薦及び連絡調整を担当した。今年度は 4 団体を推薦し、すべての団体が寄贈を受けた。

（担当：小貫央子）

寄贈団体一覧

1) 障がいのある子どもを対象とした活動をしている団体 <ul style="list-style-type: none"> ・（特活）生涯学習サポートひょうご（姫路市） ・（特活）はなのいえ（姫路市） ・音遊びの会（神戸市）
2) 東日本大震災による広域避難者を支援する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・避難サポートひょうご（神戸市）

3. 調査研究、政策提言事業

この部門では今年度、「ひょうごん福祉ネット」が介護保険の制度改正を機に活発に活動し、それを様々な形で支えました。また、2012 年の政権交代以降、NPO には距離のあった現政権ですが、ここへ来てようやく NPO との接点が増え、KEC は神戸・兵庫で自民党議員と NPO との意見交換の場づくりに尽力しました。当然、一政党に偏らず超党派での政策提言が基本ですが、与党・政府への働きかけは今後も重視していきます。

①NPO やまちづくりに関する調査、政策提言事業

1) 「ひょうごん福祉ネット」の政策提言への支援

県内の高齢者福祉 NPO のネットワークであるひょうごん福祉ネットは、2006 年に「ひょうご市民活動協議会 (HYOGON)」の 1 分科会として活動を始めた。主に高齢者分野の制度外サービスを地域の市民がいかに担っていくかを中心テーマとして活動を続け、この 10 年間で人材育成、地域資源の掘り起こしと実態調査、その見える化、などに尽力してきた。

ここ数年、介護保険制度の大改正が進みつつある中で、国の制度から外れて自治体に委ねられる「要支援」部分などについて、いっそう重要性を増す基礎自治体 (神戸市) と今後の制度のあり方について意見交換を重ねてきた。

地域において、NPO と市民の力がますます必要になってくるのは間違いなく、2016 年 4 月には久元神戸市長との懇談も実現、引き続き神戸市を中心に行政と意見交換を続けている。

KEC はこの動きに、アドバイザー役として関わってきた。



映画「徘徊 ～ ママリン 87 歳の夏」上映会

<この 1 年間の主な活動>

- ・神戸市の総合福祉計画策定への提言、および市長との懇談、そのための準備会合
 - 2015 年 7 月～2016 年 3 月 計 10 回
 - 2016 年 4 月 20 日 久元神戸市長との懇談
- ・研修会 計 3 回
- ・映画上映会 2015 年 9 月 6 日 (日) 映画「徘徊 ～ ママリン 87 歳の夏」
 - 上映会および監督・主演者とのトークセッション (参加者 400 名超)
- ・例会、運営会議 計 13 回

2) 自由民主党「公益法人・NPO 等特別委員会」との意見交換会

2015 年秋の内閣改造を受けて自民党の「公益法人・NPO 等特別委員会」のメンバーが交代。これを機に、乏しかった与党の NPO 関係立法などの動きが活発化した（※）。委員長代理（西村康稔議員）、事務局長（大串正樹議員）といった要職に兵庫選出の国会議員が入ったこともあり、兵庫は重要な地域となった。2016 年 2 月頃から全国数カ所で同委員会主催による NPO との意見交換の場が持たれるようになり、神戸でその最終回が開催された（4 月 23 日）。当会はその声かけ、集客等に関わった。

当日は兵庫を中心に関西一円から約 50 名の NPO、公益法人関係者が参加、予定を大幅に延長して活発な意見交換が行われた。

※特定非営利活動促進法（NPO 法）改正案は、2016 年 6 月 1 日に可決、成立した。「休眠預金活用法案」は 2016 年 5 月 17 日に衆議院に法案提出されたが、審議未了で継続審議となった。

※参考資料（新聞記事）参照

＜自民党「公益法人・NPO 等特別委員会」による NPO との意見交換会＞

日 時 2016 年 4 月 23 日（土）16:00～18:00

場 所 ラッセホール（神戸市中央区）

参加者

自民党 国会議員 8 名

＜公益法人・NPO 等特別委員会＞

松山政司委員長（福岡 [参]）

西村康稔委員長代理（兵庫/明石 [衆]）

大串正樹事務局長（兵庫/宝塚 [衆]）

堀井巖事務局次長（奈良 [参]）

＜兵庫県選出議員＞

関芳弘議員 [衆]、藤井比早之議員 [衆]、山田賢司議員 [衆]、石田昌宏議員 [参]

兵庫県議会・神戸市会議員 15 名

NPO・公益法人等関係者 約 50 名



意見交換会の様子（奥が議員、手前が NPO の皆さん）

3) ひょうご中間支援ネットワーク&「手引き」プロジェクト（手引き PT）

今年度、現行「手引き」の改訂へ向けた PT が再始動した。実吉はメンバーから外れ、諏訪理事、谷職員が加わった。
(担当：諏訪晃一、谷侑衣子)

②機関誌「みみずく」発行事業

今年度は機関誌「みみずく」を発行できなかった。

③役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等

団体（KEC）、個人（実吉）として以下の団体、ネットワークの役員・会員、および審議会等のメンバーとなった。

(団体)

- ・ひょうご市民活動協議会（会員）
- ・ひょうご中間支援ネットワーク（全体会メンバー、および手引きプロジェクトチームメンバー）
- ・日本 NPO センター（会員）
- ・市民ファンド推進連絡会（世話団体）
- ・NPO 法人会計基準協議会（世話団体）

(個人)

- ・ひょうご市民活動協議会 運営委員（実吉）
- ・神戸市・すまい審議会 委員（実吉）
- ・神戸市・神戸市における今後の都市空間のあり方についての勉強会（実吉）
- ・神戸市・居住支援協議会 会員（実吉）
- ・神戸市・中間支援 NPO と行政の意見交換会 メンバー（実吉）
- ・(特活)市民社会創造ファンド 運営委員（理事）（実吉）
- ・住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」選考委員長（実吉）
- ・NPO 広報力向上委員会 委員（実吉）

4. 東日本被災地支援およびその他の災害支援事業

引き続き福島県を重点支援先として、資金助成と兵庫への避難者支援などを実施しました。また、今年度は9月に発生した「北関東・東北豪雨水害」にあたり、茨城県常総市で救援活動を行っている「認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモンズ」への支援を行いました。

前者では「避難サポートひょうご」の事務局としての役割のほか、お預かりしている寄付をもとに「被災地 NPO 応援基金」として福島の NPO への助成や、兵庫への広域避難者グループへの助成も行いました。

うち続く災害に、「被災からの学び」をきちんと継承し、伝え、備えることの大切さを改めて感じています。

①東日本大震災の被災地支援

○被災地 NPO 応援基金（1）

東日本大震災の被災地・被災者支援活動を応援するために、KEC に寄せられた東北支援寄付金を原資として助成を行った。①東日本大震災の被災地における復興支援活動、②兵庫の NPO 等による現地または兵庫における支援活動、の2種の活動が対象であり、対象団体は KEC 理事会において選考し決定した。②は「避難サポートひょうご」と合同で実施した（②参照）。

①の助成先団体は、福島県内の高校生を対象に「セミナー・合宿」「メンタープログラム」「社会活動コンテスト」などの支援や、神戸と福島の高校生の交流活動などを行っている。東日本大震災・福島第一原発事故以降、福島県内の子どもたちは避難や転校を余儀なくされるなど学習に専念できない状況下にあったことから、学習支援を中心とした被災者支援活動を行っているものである。同団体の事務局長は東日本大震災を機に、神戸から福島へ移住して支援活動を行っている。

（担当：小貫央子、実吉威）

助成団体	助成金額	事業実施期間
一般社団法人ふくしま学びのネットワーク	600,000 円	2016 年 4 月～2017 年 3 月

○福島=兵庫ブリッジプロジェクト

（特活）うつくしま NPO ネットワーク（UNN）、（特活）サインポスト、（特活）シミンズシーズ、それに KEC の4団体のネットワーク。3月19日（土）に UNN の鈴木和隆事務局長を神戸に招き、「大震災と原発事故から5年 福島の今とこれからの語る報告会&交流会」と題して福島の現状を伝える報告会を開催した。

震災と事故から5年を経ても、県内外で約10万人が避難生活を送っている（福島県の統計では5万人強が県内、4万人強が県外に避難となっているが（2016年5



報告会で語る鈴木事務局長（2016年3月19日）

月現在)、行政が把握していない避難者も多いと思われる)。しかもまだ今からでも、子どもの進学等を機に避難しようという人もいるという。一方で故郷にとどまり、街と暮らしの再建に真摯に取り組む人も多く、状況はとても複雑である。その複雑で困難な状況と、避難が継続中という事実も、多くの人から忘れられつつある。

参加者からはこれからの産業・生業や地域コミュニティのあり方についてなど活発な質問が出た。今後も「関心」をつないでゆきたい。(担当：実吉威)

※ひょうごボランティア基金助成による「おはなしカフェ」(p 6 参照)の一環として実施したが、事業の趣旨からこの項に記した。

「大震災と原発事故から 5 年 福島の今とこれからの語る報告会&交流会」

日 時 2016 年 3 月 19 日 (土) 13:30~16:30

場 所 兵庫県民会館 1202 号室

ゲスト 鈴木和隆さん ((特活)うつくしま NPO ネットワーク事務局長)

参加者 29 名

②東日本大震災・福島第一原発事故による広域避難者支援

○被災地 NPO 応援基金 (2)

東日本大震災・福島第一原発事故により兵庫に避難して来られた人たちが各地で小規模なグループを作り、当事者性も帯びた、広い意味での支援活動を行っている。避難者自身による当事者活動を応援するために、KEC に寄せられた東北支援寄付金を原資として、「避難サポートひょうご」と合同で助成を行った(合わせて計 30 万円)。

金額的には上限 10 万円と小さな規模だが、申請書も簡略にして使途もできる限り自由にし、小さい当事者グループにとっては有り難いとの声をいただいた。この助成金で初めてコンタクトがあった団体も 1 団体あった。(担当：実吉威、辻早苗)

<当事者グループへの助成>

募集： 2015 年 10 月 10 日~11 月 7 日

助成先団体：

採択団体	助成金額	助成対象の事業
東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream (兵庫県・大阪府)	85,000円	東日本大震災による兵庫県への広域避難者当事者グループ活動
べこっこMaMa (兵庫県神戸市)	85,000円	
丹波篠山避難移住者ネットワーク・ こっからネット (兵庫県篠山市)	85,000円	
AWAJI LIFE (兵庫県洲本市)	45,000円	

○避難サポートひょうご

2012 年度から続いているこのネットワークの事務局を、本年度も兵庫県社会福祉協議会とともに担った。

福島県ほか東日本から兵庫県への広域避難者は、徐々に減ってはいるものの、現在でも少なくとも数百名はおられ、その支援を現在も多くの団体が行っている。その横の連携と情報発信がこのネットワークの趣旨である。県社協、YMCA、コープこうべ、NPO、各種専門家団体など約 30 の支援団体および当事者団体から構成されている。



大交流会 (2015 年 9 月 5 日)

このような支援の「成果」はなかなか定量的には示しにくいですが、当事者である広域避難者・グループに寄り添い続ける姿勢を示すこと、社会に対して「終わっていない」ことを伝え続けることが重要と考えている。避難者を取り巻く状況は、この 5 年間でも変化が激しく、今後の先行きも見通しにくく、まだ当面は「伴走」を続ける必要があると考えている。状況変化が激しいため、あまり固定的に考えず、柔軟にニーズや実態に対応していきたい。(担当：辻早苗、実吉威)

①大交流会

昨年度から要望が出ていた「避難者・支援者」による大交流会を 9 月 5 日 (土)、木口記念会館 (芦屋市) にて開催。参加者 98 名で参加者の満足度も高く盛況に終わったが、このような交流会などに参加されない方々のニーズや、新しい層へのアプローチを探ることが今後の課題と考える。



情報共有会 (2016 年 1 月 6 日)

②当事者団体への助成 (前項参照)

避難サポートひょうごが「住友ゴム工業 CSR 基金」から頂いた助成金による資金と KEC に寄せられた寄付との合同で、当事者グループへの助成を実施した。

③パンフレットの改訂・発行

年度末には広報パンフレットを Vol.3 に改訂、8500 部を印刷して構成の各団体で活用したほか、兵庫県・神戸市から県内の避難者に個別発送していただいた。(発行=2016 年 2 月)



パンフレット Vol.3

<会合等>

大交流会 9 月 5 日

情報共有会&新春懇親会 1 月 6 日

全体会 8 月 4 日、11 月 9 日

世話人会 4 月 28 日、6 月 11 日、10 月 8 日、12 月 22 日、3 月 3 日

③北関東・東北豪雨水害の被災地支援

2015 年 9 月に北関東・東北地方を豪雨が襲い、茨城県では鬼怒川が氾濫、中流域の左岸、常総市は人口約 6 万人の半数近くが床上・床下浸水という大きな被害を被った。同市では 5 年前から「認定 NPO 法人 茨城 NPO センター・コモنز」が法人事務所（支部）を置いて外国籍の子どもへの学習支援事業を行っており、その事務所も代表者自宅も被災した。市内には仮設住宅が建設されなかったため被災者は避難所か在宅で過ごさざるを得ず、健康の悪化が懸念されたほか、借家に住めなくなった高齢者や外国人などの人口流出が危惧された。

コモنزは同事務所を拠点に「たすけあいセンター『JUNTOS』」を開設し、泥出し・洗浄や家具の始末、物資や食料の提供、炊き出し、ニューズレターや FM 放送のコンテンツ制作といった多言語での情報提供、移送サービスなどの救援活動を行った。

JUNTOS は全国の支援団体の協力を得て現在も上記の支援活動を継続しており、息の長い住民主体の地域復興を目指している。

KEC は 9 月と 10 月の 2 度、事務局長を派遣し JUNTOS 事務所で活動支援に当たったほか、阪神・淡路大震災以降、被災した高齢者のために建設、運営されている尼崎・神戸の先駆的なグループハウスを紹介するなどのサポートを行った。

(担当：実吉威)

Ⅲ. 組織

1. 会議

○2015 年度通常総会

日 時 2015 年 6 月 12 日 (金) 19:00~21:05

場 所： 市民活動センター神戸 5F 会議室 (神戸市中央区元町通 6-7-9)

出席者：正会員 59 名 (うち書面表決または表決委任者数 46 名) (正会員総数 70 名)

審議事項 第 1 号議案 2014 年度事業報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 2 号議案 2014 年度決算案承認の件 (全会一致で承認)

第 3 号議案 役員改選の件 (全会一致で承認)

報告事項 2015 年度事業計画ならびに活動予算

○理事会

	開催日	審議事項	出席者
第 68 回	2015 年 5 月 25 日 (月) 17:00~19:00	・総会議案 (2014 年度事業報告案、決算案、役員改選案) 承認の件 ・2015 年度事業計画・予算修正の件	理事 9 名 (うち表決委任 1 名)、監事 2 名
第 69 回	2015 年 6 月 12 日 (金) 20:30~20:45	・正副理事長選任の件	理事 9 名 (うち表決委任 4 名)、監事 1 名
第 70 回	2015 年 8 月 10 日 (金) 18:30~21:00	・ (公財) ひょうごコミュニティ財団との間の契約の件 ・被災地 NPO 応援基金助成の件	理事 9 名 (うち表決委任 1 名)、監事 2 名
第 71 回	2016 年 2 月 26 日 (金) 18:00~20:00	・2016 年度事業計画案、予算案承認の件 ・東日本の NPO への助成案承認の件 ・ (公財) ひょうごコミュニティ財団との人件費等の按分案承認の件	理事 7 名 (うち表決委任 2 名)

2. 会員

	2011 年度末	2012 年度末	2013 年度末	2014 年度末	2015 年度末実績 (前期比)
正会員	72	72	71	70 名	67 名 (▲3 名)
賛助/個人	38	4	16	14 名	1 名 (▲13 名)
賛助/団体	7	0	5	4 団体	2 団体 (▲2 団体)
利用/個人	5	1	3	0 名	0 名 (±0 名)
利用/団体	7	1	1	0 団体	1 団体 (+1 団体)
計	129	78	96	88 名/団体	70 名/団体 (▲18)
(下段=正会員以外)	57	6	25	18 名/団体	3 名/団体 (▲15)

3. 役員

今年度は改選期であり、飛田監事が退任、後任に土肥正会員が選出された。

また、総会と同日に開催された理事会において、引き続き中田理事長、森田副理事長が選任された。

理事 中田豊一（理事長）	理事 桑原英文	理事 山下淳
理事 森田博一（副理事長）	理事 実吉威	監事 土肥直紀
理事 雨森孝悦	理事 諏訪晃一	監事 宮崎洋彰
理事 磯辺（東方）康子	理事 早瀬昇	

任期：2015年6月12日～2017年度通常総会終了時

4. 事務局

・事務局職員

	KEC 本体	コミュニティ財団と兼任
常勤スタッフ		実吉威（事務局長） 谷侑衣子 ※2015年9月より休職中 今府紘子（2015年12月～2016年3月）
非常勤スタッフ	大島一晃 小貫央子 山崎ゆり 吉兼由貴子（2015年12月～）	辻早苗

※辻職員は2016年4月からひょうごコミュニティ財団へ出向。

※2016年4月から幾田一輝職員が非常勤で入職。

・事務局ボランティア 星野修平

（敬称略）

第 2 号議案 2015 年度決算報告案

1. 活動計算書	・・・・・・・・・・	21
2. 貸借対照表	・・・・・・・・・・	23
3. 第 16 期財務諸表に対する注記	・・・・・・・・・・	24
4. 財産目録	・・・・・・・・・・	26
5. 監査報告	・・・・・・・・・・	27